

社会福祉学における研究方法論を考える  
～量的研究と質的研究の背景にある考え方を探る～

## 量的研究の考え方と進め方

岡山県立大学 保健福祉学部  
現代福祉学科 竹本 与志人

### I. 量的研究における基本的な考え方 -ソーシャルワーク実践との関係-

量的研究とは、数量的なデータを用いる研究の総称をいう。その主たる役割は、統計的分析方法を基礎にして演繹的・帰納的仮説を実証的に検討することである。

量的研究は「多数把握」を基本としており、多くのクライアントに起きていると推測される「共通性」に視点を置いている。ケースワークについてバイステックは、個別性を重視しているが人間性に共通の特質や特徴があるとも述べている。量的研究の成果は、「共通性」を明らかにすることにより「個別性」を確認しやすくすることに貢献するのである。

### II. 量的研究で明らかにできること

#### 1. 実態把握

実態把握とは、アンケート調査などを用いて全数（悉皆）調査または標本調査により、集団の傾向や特性を把握することをいう。データを集計したものを記述統計といい、限られたデータ（標本）から母集団の傾向を推測することを推測統計という。実態把握の成果は、ユーズアドボカシーを行うための重要な資料となる。

#### 2. 因果関係の推論の検討

因果関係の推論とは「演繹的・帰納的仮説」のことである。その検討とは、モデルの存在を統計学的手法を用いて、「その適切さ」や「従属変数に対する寄与率」をもってモデルの妥当性を判断することである。前者は構築したモデルが研究対象群に当てはまるか否かを判断するための適合度指標を用いて判断する。後者は独立変数によりどのくらいの割合で結果が起こり得るのかといった説明率により判断する。

\* 演繹的仮説に基づいた研究モデルによる分析例

\* 帰納的仮説に基づいた研究モデルによる分析例

### 3. 集団または変数の類型化

#### ①集団の類型化

集団内に潜在する異なる特性（属性等の変数）をもった下位集団（類似性の高い人）を探索（グルーピング）する方法である。類型化には、クラスター分析や潜在クラス分析などの手法を用いる。

＊集団の類型化の分析例

#### ②変数の類型化

集団における回答の傾向から、類似性の高い変数を探索（グルーピング）する方法である。類型化には、クラスター分析や探索的因子分析などの手法を用いる。

＊変数の類型化の分析例

### 4. 従属変数に対する個人要因や環境要因との関連

専門職の実践が個人要因や環境要因とどの程度関連しているのかについて、個人要因と環境要因の両方との関連を一度に分析する。

＊従属変数に対する個人要因や環境要因との関連の分析例

## Ⅲ. 量的研究の進め方 -臨床疑問からはじまる研究プロセス-

### 1. 臨床疑問

日頃の臨床現場で起きている状況、何らかの手立てや改善をしなければならないのではないかとと思われる状況から生成される疑問である。

### 2. 研究疑問を立てるために必要な構造化

研究対象者，独立変数，交絡要因，従属変数などをいう。

### 3. 研究の可能性の確認

#### ①実施可能性

意義深い研究であっても，実施可能性がない研究であれば計画する意味がない。

#### ②倫理的

倫理的でなければ研究実施はできないというものであり，倫理委員会への申請・承認がそれにあたる。

#### ③研究疑問

研究モデルを構築するために必要な演繹的または帰納的仮説をいう。

#### ④研究の到達度の確認

自分が考える程度のことは，先人がすでに考え，研究しているかもしれないという観点から確認する。

#### ⑤研究モデル

より強固な因果関係に焦点化し、単純化を行ったモデルである。

#### ⑥概念定義と尺度選定

尺度は構成概念妥当性が検証されているものを選定し、ない場合は開発する。

#### ⑦研究デザイン

証明水準の設定を行う。

#### ⑧データの収集・分析

アンケート調査の場合は研究の趣旨を伝え、研究参加の同意の確認をすることが文書を通して行われるため、なるべく詳細かつわかりやすく研究の概要を記した文書を添付し、調査票の最初には研究参加の同意の有無を問う欄を設ける。分析には、データや目的に合った方法を選択する。

#### ⑨結果の報告

学会や学会誌、報告書により発信する。研究対象者には事前に報告書の送付の希望を聞き、希望者には送付する。

### IV. 量的研究の限界 -注意点も含めて-

#### 1. 量的調査の意義

ソーシャルワーカーの経験のみでは見抜くことのできないクライアントの内面世界を、科学的手法を用いて明示することができる。また、数値として示された結果は客観的指標となり、クライアントをアセスメントするうえで大いに役立つものになる。

#### 2. 量的調査の限界

データの収集方法や調査に関する予算などにより、調査の実施範囲が限定されやすい調査に協力を得ても100%の回収率を得るのは困難なことが多い。また、調査対象群に起きていると考えられる現象の一部に過ぎず、クライアントが経験している世界を詳細に理解することは難しい。

しかしながら、近年は精度が高く容易に使用可能な統計ソフトが普及しており、簡便に結果が出力できるようになってきている。実践現場でクライアントの援助に有効なアプローチを選択するように、研究においてもクライアントに起きている現象を解明するために最も効果的な手法を選択することが求められている。

研究者はクライアントのために研究をするのならば、量的研究、質的研究等のあらゆる手法を身につける必要がある。目の前の苦悩をかかえる人々を助けるために、研究者は多くの技を習得することが課題であると考えられる。

## 参考文献

- ・ 福原俊一『臨床研究の道標』特定非営利活動法人 健康医療評価研究機構, 2013.
- ・ F.P.バイステック『ケースワークの原則〔新訳改訂版〕援助関係を形成する技法』誠信書房, 36-37, 2006.
- ・ 平山尚・武田丈・呉裁喜・藤井美和・李政元『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』ミネルヴァ書房, 2003.
- ・ 北島英治・白澤政和・米本秀仁編『社会福祉援助技術論 (上)』41, 119, ミネルヴァ書房, 2007.
- ・ 古谷野亘・長田久雄『実証研究の手引き ; 調査と実験の進め方・まとめ方』ワールドプランニング, 9-22, 1992.
- ・ 倉本亜優未・仲井達哉・杉山京・竹本与志人: パーキンソン病患者を対象とした家族機能と抑うつ症状の関係. 社会医学研究, 34 (2), 日本社会医学会, 45-55, 2017.
- ・ Lewin K : Field theory in Social Science: Selected Theoretical Papers. Cartwright D ed., Harper & Row, New York (1951).
- ・ 杉山京・中尾竜二・佐藤ゆかり・桐野匡史・神部智司・竹本与志人: 地域包括支援センター専門職を対象とした認知症高齢者の受診援助における専門医療機関との連携実践状況の類型化. 老年精神医学雑誌, 26 (2), 日本老年精神医学会, 169-182, 2015.
- ・ 杉山京・竹本与志人: 地域包括支援センターの専門職を対象とした認知症専門医のいる医療機関との連携の実践状況とその関連要因. 老年精神医学雑誌, 28 (1), 日本老年精神医学会, 57-70, 2017.
- ・ 仲井達哉・杉山京・倉本亜優未・竹本与志人: パーキンソン病患者の主介護者を対象とした介護負担感と患者の主治医による情緒的サポートとの関係 ~主介護者が認知する家族機能に着目した多母集団同時分析~. 社会医学研究, 34 (1), 日本社会医学会, 41-53, 2017.
- ・ 竹本与志人「第4章 量的調査の方法. 第1節 量的調査の概要」『社会福祉調査の基礎』(日本ソーシャルワーク教育学校連盟編)中央法規出版, 55-62, 2021.
- ・ 竹本与志人: 量的研究の動向と課題. 社会福祉学, 53 (3), 日本社会福祉学会, 141-145, 2012.
- ・ 竹本与志人: 量的研究の理論と方法. 日本在宅ケア学会誌, 23 (1), 日本在宅ケア学会, 35-41, 2019.
- ・ 竹本与志人・香川幸次郎・白澤政和: 血液透析患者の精神的健康と家族機能に対する認知的評価ならびに主介護者の療養継続困難感との関連性. メンタルヘルスの社会学, 15, 日本精神保健社会学会, 16-27, 2009.